

春・秋作馬鈴しょ栽培管理指針

ひろしま農業協同組合芸南地域本部
全国農業協同組合連合会 広島県本部

(2024年) ●営農経済部営農経済課 TEL(0846)45-3360 ●安芸津アグリセンター TEL(0846)46-1017 ●安浦店経済 TEL(0823)84-2049 ●川尻店経済 TEL(0823)87-2931

※必ず、生産工程管理日誌を提出しましょう。

良品質・多収は土づくりから 客土、深耕の実施、完熟堆肥の補給

作型	春					秋														
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月									
生育期	休眠期	萌芽期	萌芽始め	地上発芽	着蕾期	開花初期	開花盛期	開花末期	収穫	休眠打破	萌芽期	萌芽始め	地上発芽	着蕾期	開花初期	開花盛期	開花末期	休眠期		
主な管理	種いも準備	定植準備	定植	中耕	土寄せ	収穫	出荷	休眠打破	定植	中耕	土寄せ	収穫	貯蔵	種いも準備	定植準備	定植	中耕	土寄せ	収穫	出荷
基本防除	農薬は防除基準例を参照										農薬は防除基準例を参照									
使用農薬	アタッキン水和剤										アタッキン水和剤									
散布月日	/ /										/ /									

●土づくり対策(10aあたり)

完熟堆肥の補給	そうか病対策・高pH圃場
牛フン 1,000kg	畑のカルシウム 100kg
こだわり健肥 1,000kg	硫マグ 40~60kg
豊穰 1,000kg	土壌改革(微粉硫黄) 20kg
発酵トンプン 150kg	ガッテンパーハー 50kg

~土壌診断を活用した施肥例(10aあたり)~

こだわり健肥 1,000kg	完熟堆肥の施用で病害の発生しにくい圃場づくり
畑のカルシウム 100kg	pHを上げずに石灰分の補給と吸収のよいカルシウム効果でイモの健全化
硫マグ 40~60kg	pHを上げずに苦土分の補給
アヅミン 40~80kg	腐植酸の補給による保肥力の向上

※施肥量は土壌診断の結果に基づいて、施用してください。

●効果的な除草手順

- ① 植付: 植え付け時には、十分な深度を確保してください。
- ② 覆土: 塊茎が露出しないように、ていねいに覆土してください。
- ③ 散布: 雑草の発生前に散布してください。

●使用薬剤(例) ゴーゴーサン乳剤またはダイロンゾル

●疫病対策

- 発生させない、予防が重要です。
- ① 萌芽そろい期⇒ジマンダイセン水和剤又はペンコゼブ水和剤
 - ② 着蕾期⇒プロポーズ顆粒水和剤又はフェスティバル水和剤
 - ③ 土寄せ期⇒ランマンフロアブル⇒フォリオゴールド⇒ベトファイター顆粒水和剤

●施肥基準例(10aあたり) ※秋作は生育を見ながら必ず追肥を行う。

区分	肥料名	総量	元肥	追肥	20kg(袋数)		分量		
					元肥	追肥	N	P	K
一般圃場①	広島馬鈴しょ有機特号(9.8.10) 馬鈴しょ化成S30(7.6.9)	110	110	5.5	3	14.1	12.4	16.4	
		60	60	6.5	3	14.6	14.0	15.8	
一般圃場②	馬鈴化888(8.8.8) 馬鈴しょ化成S30(7.6.9)	130	130	5.5	3	14.1	11.3	13.1	
		60	60	7	-	12.6	11.2	14.0	
マルチ栽培	広島馬鈴しょ有機特号(9.8.10)	140	140	-	7	-	-	-	

○砂質土、客土畑については元肥、追肥とも1割増で施用。○水田への植付については元肥につき1割減で施用。

●病害虫防除基準例

病害虫名	RACコード	農薬名	濃度	安全使用基準		効果	注意事項
				収穫前日	回数		
疫病	M3	ジマンダイセン水和剤※	500倍	7	10	○×	ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤は発病前予防のみで使用する。 ●着蕾期・開花期(気温20度)頃から急激に多発するので葉裏まで十分散布する。 ●疫病発生前の予防散布が最も重要
	M3	ペンコゼブ水和剤※	500倍	7	10	○×	
	21	ランマンフロアブル	1,000倍	7	4	○○	
	40,M5	プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	7	3	○○	
	40	フェスティバル水和剤	2,000倍	14	3	○○	
	4,M5	フォリオゴールド	1,000倍	7	3	○○	
アブラムシ類	27,40	ベトファイター顆粒水和剤	2,000倍	7	3	○○	
	4A	アトマイヤー1粒剤	4kg/10a	植付時	1		●採種地区はアブラムシ初期防除に粒剤を使用する。 ●粒剤は植溝に施用し、土壌混和後植付する。 ●着蕾期・開花期頃発生最盛期となるので葉裏まで十分かかるよう散布する。 ●初期防除に努める。
	1B	ジェイエース水溶剤	1,000倍	30	2		
	9B	コルト顆粒水和剤	5,000倍	前日	3		
	29	ウララD F	3,000倍	7	2		
	4A	アトマイヤー水和剤	1,000倍	14	2		
	23	モベントフロアブル	4,000倍	7	3		
3A	テルスター水和剤	1,000倍	3	4			
ケネキリムシ	3A	トレボン乳剤	1,000倍	7	3		
	1A	オリオン水和剤40	1,000倍	前日	5		
	1B	ダイアジノン粒剤5	4~6kg/10a	植付時	1		
ヨトウムシ類	28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	前日	2		●発生初期の防除に努める。 ※同系剤となるので、左記剤の連続散布はさける。
	28	ベネビアOD	4,000倍	7	3		
ジャガイモガアブラムシ類	5	ディアナSC	3,000倍	前日	2		
	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	7	3		●ジャガイモガへの使用は、発生初期のみ。多発時は使用しない。
そうか病	1A	ランネート45DF	1,000倍	7	5		●ジャガイモガの春作後半の異常発生に注意する。
	25,1	アタッキン水和剤	40倍	植付前	1		●種いもを10秒間浸漬する。
	29	フロンサイド粉剤	30~40kg/10a	植付前	1		●全面散布し、土とよく混和する。
切断消毒		ソイルサプリエキス	4倍	植付前	-		●定植直前に浸漬し、直射日光を避け、風乾する。
		ケミクロンG	10倍	切断時	-		●5秒間切断刀浸漬する。
霜対策		熱湯消毒	-	切断時	-		●75℃以上で5秒間浸漬する。
		トレエース	500倍	発芽時	-		●低温が予想される2~3日前ハndsプレー等で散布

●除草剤使用基準例

薬剤名	使用時期	濃度	使用方法	使用回数
トレファノサイド粒剤2.5	植付後萌芽前	4~5kg/10a	全面土壌散布	1
ゴーゴーサン乳剤	植付後萌芽前	300ml/100ℓ水で溶く	全面土壌散布	1
ダイロンゾル	植付後萌芽前	200ml/100ℓ水で溶く	全面土壌散布	1
ブリグロックSL	萌芽直前	600ml/100ℓ水で溶く	雑草茎葉散布	2

○使用農薬・散布日を必ず記録しましょう。 ○農薬安全使用基準を守りましょう。(詳細は、普及員、技術員又は農協へお問い合わせください。)
○農薬は専用保管庫に入れて管理しましょう。 ○他の作物にかからないよう散布しましょう。